

新潟県

公民館月報

昭和55年1月号

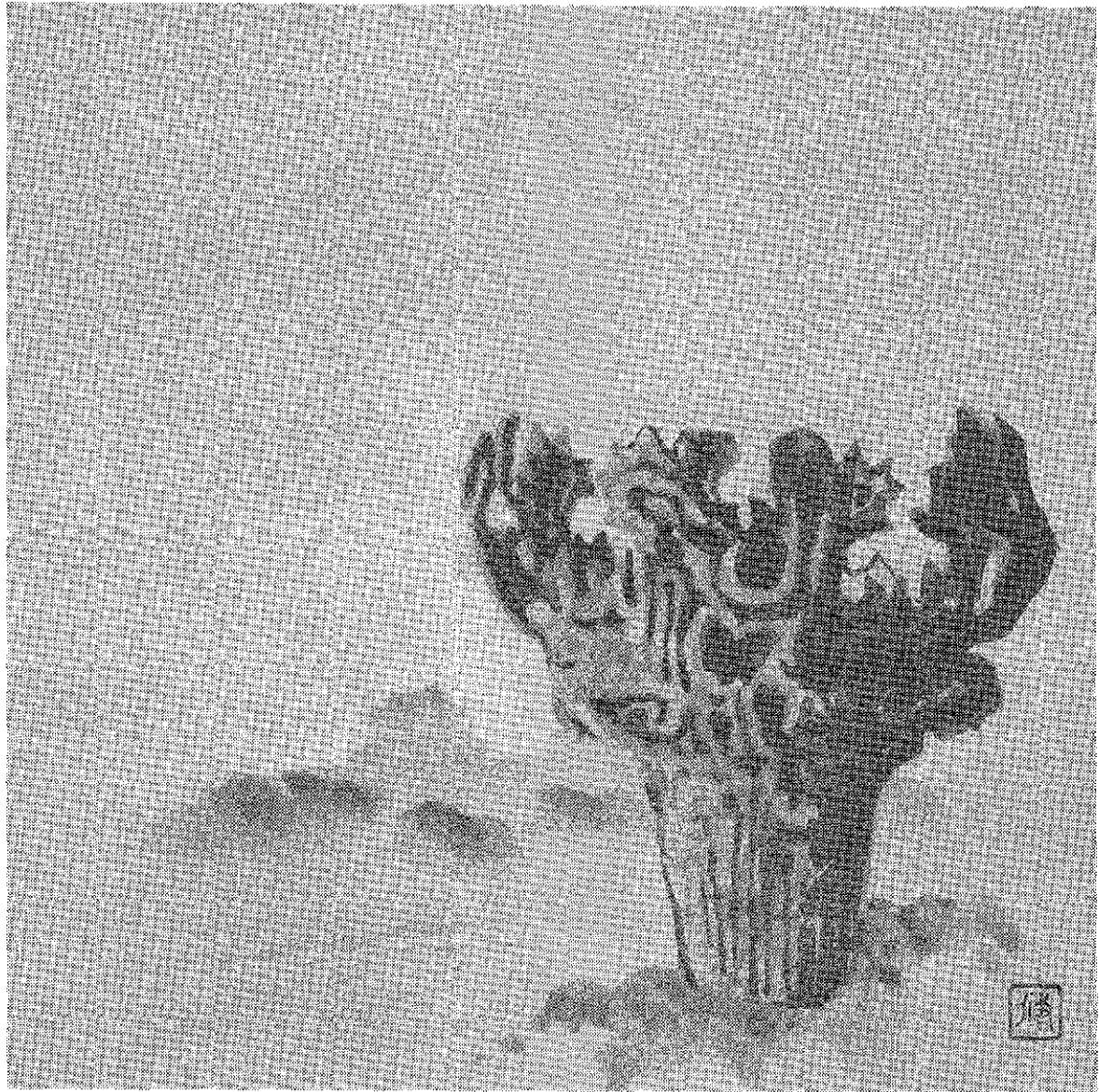
発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟（0252）24-6073】【振替新潟4094】

発行人 会長 石井耕一
編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 70円 年共・年価 840円】



火焔土器

昭和11年長岡市関原町馬高遺跡の源助畑で、堅穴住居の戸址のめぐりから、鋸の齒のような突起とうず巻きなどを深く彫りこんだ深鉢土器の横に押しつぶされた姿になったものが掘り出された。「火焔土器」である。

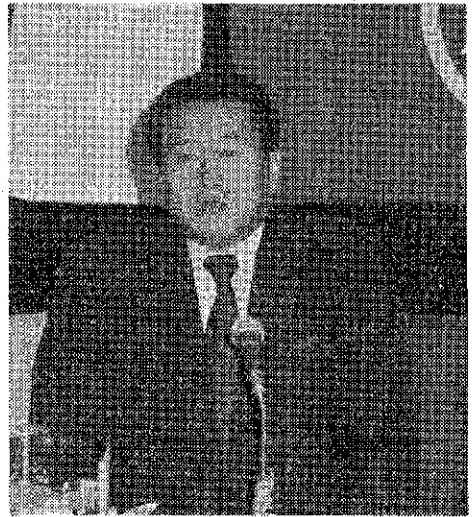
高さ31センチ、口径32センチ、上体が大きく開き胴下は細くしぼられキャリパー状をなしている。器面にはすきまなく隆線文手法で、垂直や重うず巻きやわらび状の模様がつけられて、器物全体が怒濤や火焔の渦を思わせる。そこにはかれらの縄文人の喜びも悲しみも、生存感情のいっさいが秘められているのである。

絵・田代修一（長岡市）

文・新潟県大百科事典より（本紙12月号表紙絵「後面」の説明文に誤植がありました）

16行目中ほど一細い杓を杖に、26行目中ほど花柳男を界に訂正しおわびいたします（）

公民館振興大会で決議



(与党文教委員長森喜朗代議士の祝辞)

社会教育法の改正

施設費補助増額の実現

岐皇大会のあとを受け、十二月二十八日、東京で開かれた公民館振興大会。

赤坂プリンスホテル大ホールにかけられた大会ローガンは四本あった。すなわち

- ①公民館施設補助一四億三千万円、生涯教育補助一億五千万円、六十四万円の出現。
- ②公民館の振興をはかるために社会教育法の改正を。
- ③郷土を愛し豊かなくつくる社会教育。
- ④きまりを守り住みよの地域社会を。

(稲葉修代議士もかけつける)

当日の会場で集った都道府県文・楽記録の入選者の表彰がある。関係者おのり市町村長は七百七名、本県柏崎市中央公民館事業名、昭和五十四年度全国優良公民館職員四十二名と同公民館永年勤続職員百九十四名の表彰式が村会長から栄えある表彰状を受け、本県からは立川芳徳氏(前)符野村公民館主事(が優良職員として、佐藤吉司氏(長岡市日越公民館主事)以下九名が永年勤続職員として表彰状を受け、ついで社会教育法30周年記念、公民館論 亮氏、山東昭子女史等々、本県選

宣 言

公民館が、生涯教育の中心的推進機関として、今日ほど重視され、また期待される時期はなく、地方公共団体の健全かつ円滑な発展のため、公民館の果たす役割が現今ほど大なることはない。

かかる現状に立つ公民館が、飛躍的な発展を遂げ、強力に社会教育を実践することによってこそ、わが国教育の目的が確実に達成し得るものと信ずる。

このため、公民館施設・設備の整備と、公民館職員の充実、向上をはかることが当面の急務であり、この実現なくして、公民館の使命は達し難い情勢にあることを憂い、われわれ関係者一堂に会し、第28回全国公民館振興大会を開催した。

結果これらの当面する緊急事項が1日も速やかに実現されるよう関係方面に強く要望するものである。

右宣言する
昭和54年11月28日

第28回全国公民館振興大会

決 議

- 一、昭和55年度公民館施設費補助金145億2,000万円、生涯教育事業振興費補助金25億4,642万円の実現を期する。
- 一、公民館を義務設置とし、公民館職員の身分資格を明確にするとともに常勤専任の公民館長、公民館主事を必置制とするため、早急に社会教育法を改正すること。
- 一、地方交付税における公民館費の算定基準を抜本的に改善し、単位費用の大幅な増額をはかること。

右決議する

出の元文稻葉修氏も顔を見せた。

このあとNHKチーフマン・ワンサーの阿部善允氏の司会で公論会があり、パネラーの神奈川県教育委員会教育長阿部治夫氏、宮崎県愛宕市長徳田美氏、公民館利用者代表として奈良県の橋本三郎氏、それに衆議院議員の藤野氏等が加わるといふ多様さ、その弁舌には耳をかた打てさせられるものがあった。

最後に、本県公連会長(夫公連理事)の石井耕一氏が別稿のよう宣言・決議案を読み上げると、万雷の拍手がわきおこり、これを採択して打ち上げた。

全公連表彰に輝く人々



昭和五十四年度の全国表彰に輝いた人々は本県から左記の十名で、佐藤善司(長岡市日越公民館) あった。このうち七名の方々から 田辺ゆき子(柏崎市中央公民館) それぞれ受賞の記をいただいたの 池田 清(十日町市公民館) で紹介する。なお、田辺ゆき子、 梶野元一(十日町市公民館) は、実録記録の優秀賞受賞者 として執筆していただいた。

全国優良公民館職員
立川芳俊(毎神村公民館)

公民館永年勳績職員
佐藤善司(長岡市日越公民館)
田辺ゆき子(柏崎市中央公民館)
池田 清(十日町市公民館)
梶野元一(十日町市公民館)
保坂浩司(十日町市公民館)
波形卯二(十日町市公民館)
関門友幸(十日町市公民館)
木津庄吉(見附市真勢公民館)
船崎 同(上越市公民館)



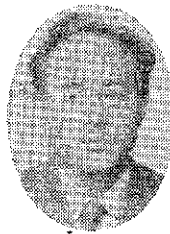
ふれあいの姿勢貫く

立川 芳 俊

私が公民館勤務を任命されたのは昭和二十八年四月(当時神山村公民館)であります。公民館は

私な所どころな仕事なのか、学校を雇用して行ない、指導助言からない私にとってはその日その日、片桐先生は真の教育者であり、その人徳をどうにか公民館の一角(物置)に教育委員会事務 認識を得られる事になり、自分局と公民館事務局が併設されていでも一生懸命やちう思いうすました。館をもたない公民館は一体なにをやらなければいかぬかの連続でありました。幸い私の恩師、故片桐義一先生(初代公民館長)の熱意により催しもの等はずべて

赤坂プリンスホテルでの全公振大会で表彰された本県勢



相互理解の媒体として

佐 藤 善 司

自分の生れた町で青年団役員となつたのがきっかけで、当時の三島郡関原町公民館運営審議委員となつたのが、公民館との始めての出会ひであった。以後、町役場職員、長岡市役所職員として今日に至るまで、税務課勤務の一年間を除いて、二十七年間、公民館活動に専任して来たが、中央公民館勤務の三年間だけが専任で、あとは全部併任兼命の公民館主事である。こうした環境の中で、二十有余年、公民館活動からはなれることのできなかつたのは何であつたであらうか。

戦後間もない社会教育の拠点と行政団体と、公民館関係団体が、わめて緊密に相互理解を深めてきた。公民館活動は真の火の如く燃え上り、この活動にかかわることが公民館活動の旺盛どころである。身分を越え、地域に超越したものの発達の展開、住民の話あいの場として性格をもつカリ版すりの館報の発行など、館長を中心

わゆる身体のおれ合いの姿勢がなくてはならないと確信しています。近時いわれている共同性、連帯性の欠如、人と人とのふれ合いの機会としてコミュニティ作りが最も重要な課題と思ひます。また今回の大会決議文の中にもあるように公民館は数十年前より、金、館の確保を訴え続けてきたのであります。昭和二十九年には全公連で公民館単行法の実現へと鋭く要望してきた所でもあります。私共公民館関係者は今後における公民館振興のためにも、かつての公民館単行法等関連法律の改正実現に努力したいのであります。(毎神村公民館)

心として、関係者は、常に公民館活動の現場に臨んで、その実践を果している。この公民館に勤務すること、十五年間、今回私は地域の支えによって、受けることのできた表彰のよろこびを静かに味わつて居る。

公民館活動に従事すること多岐職とし、さらにはその使命感に歩みも近づいてくることができたならば、まことに幸いなりと念じている今日この頃であります。(長岡市日越公民館)

住民とともに歩いた三十年

池田 清

今年には公民館が築屋して三十年になるわけですが、築屋時の公民館は学校やお寺に隣りして公民館の看板をかけた部屋には暗い露球がぼつんとついている程度の誠におそまつなものでした。それでも地域の人は非常に喜ばれたものでした。その日はと違って

物資も食糧も不足の時代でした。少しの土地にも食糧を作ったもので、村には若者も多勢いました。今から考えれば全くめぐまれてはいませんでした。しかし地域には何か活動があったらと思います。こんな時に公民館が館舎をあけたわけです。多勢の青年達はこの自由を利用して公民館に集まりました。私もそのころでは小学校に併設の公民館が多かったです。毎晩多勢の青年達が集って夜学や討論をやったり学習したり、ダンスや民謡で楽しんだものでした。この頃の活動は予算もないので資金

集めたりもつたわけですが、公民館運動をもちあげようとする地域に呼びかけ、関係行政機関や農協の協力を得て一つ一つの事業をこなしていったわけですが、何もなかったら困るものでした。最初の頃は青年と婦人の利用が多かったのですが次第に壮年層や老人の利用も多くなっていきました。青年は農業クラブや研修会等で熱心に活動を続けました。壮年層も丹心持ちで集まりました。農協関係の研究をしてみました。この人は非常に意欲的でした。何か勉強しなければいけないという感じもつたわけですが、公民館が住民と共に歩んで三十年、立派に育っています。本誌に纏うことです。

(十日町市保育所長)

文化活動を中心に地域づくり

木津 庄吉

昭和三十三年五月、見附市令町公民館勤務をもち出し、一時市役所事務に従事しましたが、間もなく公民館にもどり、公民館職員として、通算十七年が経過し、四つの公民館をめぐりました。

当初の青年学級生が今は、立派なお父さん、お母さんとなって、社会的にいろいろな分野で活躍され、若妻学校の方は婦人会や農協婦人部の幹部として活躍されるようになりました。

夜、屋なしのハードな勤務もありましたが、いろいろな事業を通じて、地域の方々、社会教育関係者の御指導、御協力を頂き、楽しい仕事が出来、多くの仲間ができたことも深く感謝しております。

全国民館振興大会の講師のお話もありましたが、自分達の子ども達の様に比べ、物質的には非常に恵まれた今、一番缺くと思われる事は精神面の充実であり、地域連



余暇利用か教育法活動か

関口 友幸

表彰状をいただいた時は、私の生涯に一つの区切りになるだろうと思いました。なせなら、54年11月1日付で異動を命じられるまでの人生の半分近くを公民館と共にあったと言っても過言でないからです。16年と11カ月間公民館にお世話になった日々を顧みるとき、私

にどうも公民館とはなだたんだんがらみで反響するより、私は公民館にどうも存在在ったと思ふ時、自分の浅学無能を恥じ入るばかりです。土曜、日曜、祝日に限りなく市民に奉仕できることが生きがいと感じ、(私の仕事は主に義務の市民会館事業が多い) 自覚を怠りませんでした。今日、平常な勤務になった日曜日に字を遣うから今日日は休みかなんて聞かれるとふつとものたりなきを感じることもあります。二年間の半方は日曜出勤していた留



表彰を受けて思う

帯感の音成であると感じております。最近地域づくりの重視がなされておりますが、その中心になるものは、その地域の文化であると考えております。

豊後公民館では地域づくりの中心に文化をすえていろいろな事業を進めております。特に地域の若者や、小、中学生の参加する地域文化活動に積極的に取り組んで参りました。具体的には地区民文化祭、少年俳句大会、中学生の集い、親子スポーツ等を開設し、市民参加の文化活動をねらって努力しております。これらも公民館活動の一日一日を大切に行きたいと思っております。

(見附市豊後公民館)

魅力ある地域社会の創造

船崎 同

所得倍増論が盛揚し、農産園から工業園への道を突進、若者たちが都市へ去り、老人と婦女子が残り、地域社会の発展や公民館活動のエネルギーが失なわれた。

当時、曲り角にきた公民館に「進展する社会(公民館の運営)」という新しい指針が発表される。

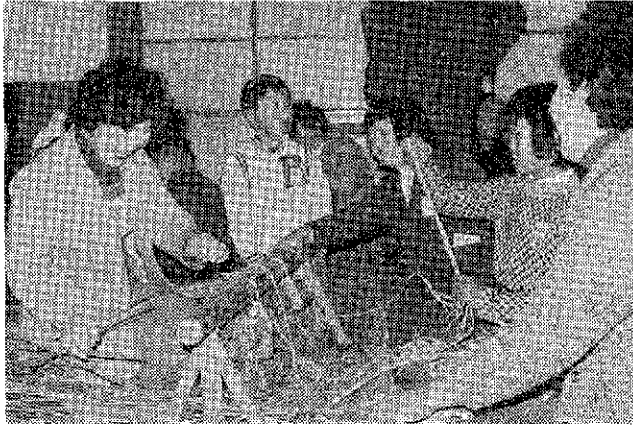
昭和四十七代前半、公害反対運動から生活環境改善の要求が高まり、産業優先から生活優先の政策を要求して現われ、昭和四十四年以來、経済企画庁、厚生省、自治省、文部省のそれぞれ立場で政策を提言、答申を次々に発表された。これはまさに地方の復興であり、新しい民主主義の創造である。こうした時代の潮流を背景に昭和五十二年第二次全国総合開発計画を決定し、地域主導に立つ新しい地方の自立と責任において安定した居住環境と経営基盤を確保する定住圏構想、田園都市構想



である。これには地域社会の構成主体である個々の住民の責任ある参加が不可欠で、文化的能力を引き出し行政運営が期待されている。歴史は再び地方の時代を迎え、見直されるのは、公民館活動と公民館主導の対応性である。これからの公民館は深い教育領域から脱皮し、住民の生活全般にわたる課題を視野に入れ関係行政部局の諸機能(公民館のもつ固有の教育機能を統合し、個性と魅力に富む地域社会の創造に向け、住民のコミュニケーション)活動をも総合的に援助し、指導するシステムを開発してゆかなければならぬ。

(上越市立公民館青年係長)

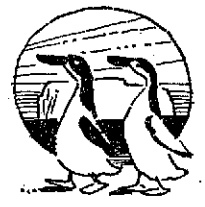
寺泊町本山分館



お母さんと一緒に炭俵造り

「親子三代手造りの会」日程表

13:00	オリエンテーション	15:30	子ども…… 作品であそぶ
13:10	製作活動	16:00	(お手玉・竹馬・竹とんぼ)
14:40	作品紹介		・おとな 映画鑑賞 (家族関係について)
14:50	・作品をみてまわる		
15:30	・手作り甘酒(PTAによる)みかんのおやつ	16:10	家族つれだって帰宅



ねらいは心の交流

伝えていこう手造り品

「藤原やひこ山と、良寛ゆかりの地、国上山とを背に仰ぎ、拡大な越後平野を風渡してひろがる十二部郡、二八八戸、本山小学校の学区。これが寺泊町公民館の本山分館の地域である。

昨年四月この地に小学校長として赴任し、早速分館長を命ぜられました。私にとってははじめ

の仕事をあり、職務の重大さともいえず、すい分とまどいました。分館のわらわ「明るく楽しい木の山」の地域づくりを、どのような手だても活動を進めたいといひながら、分館長のなやみは果てしなく新大分館長のなやみは果てしなくひつがってゆく……。

当地域は農業を主体としながら機械化された経営につれて他町村へ、一ヶ年の三木柱をたてた。

それらの中から特に第③の柱である「心の交流」をねらいつける親子三代手造りの会について、この報告をしてみたい。

期日は創設心のゆたかりした一月末をあて、次の文を地域に配付。

「私たちのまわりも子どもたちの世界にも昔からの伝統的なもの、

生活の知恵から生み出されたもの、身近な材料を用いたもの、など、頭を働かせ、手足を動かした手造り品……。」

「おとなが子どもへ、親が子へ、あの家からこの家へ。作り教え合ひながら、学ばせながら、作る楽しさを味わい……。」

それそれ家ごとに何を作るか家族相談をして出口材料を持ちよる。これは前年度も実施した経験があったので当日は大勢の参加を得た。学校(分館)を全部開放して教室ごとに部数を割り当てた。

子どもは大人の手際ひよきに目とれ、親子の協力の姿を喜び



「手さばきもよくわらじ造り」

家族が心を「にする喜びや楽しさ」を味わい、どの教室も汗だくた

以上、昨年度は地域住民全体を対象に広い社会層の活動に重点をかけたが、今年はいかに町で当

局住民課や社会教育課の並々ならぬ配慮と指導を得て「育児教

「婦人学級」など、婦人層にメニューをあて、月一回の実施を続けさせていた。よいこと、もの育成こそ明確な新しい地域づくりの基礎であることをかみしめている。

(寺泊町本山分館長・島家朝子)

参加者の声

あたたかな場

近況生活複雑化多様化の中で、親子三代手造りの会に父兄、児童が一つの作品に取り組み、心と心の対話でできあがった作品の数々は子どもたちの愛情心と想い出を感じさせる作品で、ふたふた見られぬ懐かしいおりのする場であった。

今後とも、子どもたちの地域育成会の一環としてこの会をつづけていきたいと思ひました。

(PTA会長・和田 忠)

「押絵」

製作の喜び

お出になった大せいの方々は、押絵をなさるべく始めてたという方が多いと思ひます。そんなあなたを校長先生は手に取るように教えたさいました。どうにか色紙に張る事ができました。最初は構構、次回はお雛様、できあがった時の喜びはまた別です。次の婦人学級がたのしみです。

(婦人学級生・北沢雪子)

あの頃のこと

訪問集会 (1)

大沼 俊 爾

地域の後進性から脱却を
五頭山塊の末端が南北にのび、
平行して真木山の低平地にはさま
れた耕地わずか六百ヘクタールの
地域、それが当時の松浦村であ
た。

四キロメートルの道を北西に行
けば新発田市、しかも隣接し月
岡温泉などもあるのになせか後進
性が強く、山麓地帯特有の封建色
が巾をきかせ目だつような特産物
もなく、その日その日に繁化のな
いことを祈りつつ生活に見栄を青
々として求めていたのが当時のい
つわらざる姿だ
った。昭和二十
八年五月、松浦
村農協職員で教
育情報主任だ
た私が、急に教
育委員会事務局
書記として五月一日から勤務する
ことになった。



たが建物もなく、公民館は後進の
一隅にだけ置かれて満足したので
ある。
役場入口の玄関に小さな公民館
の看板を掲げてみたものの、何か
ら手をつけたやうにそれがすた
目目盛もつかない。
教育長から社教育方針を示さ
れて公民館針もさうやく決ま
り、まず公民館運営協議会委員
と、いろいろな組織が次々とでき
ていった。それにしても遅い公民
館の設置であった。

その頃すでに各村では、立派な
活動をつづけて
いた頃である。
遅い発足ではあ
るが、何とかし
て他村に追いつ
かなければなら
ない。それには
まず村民の意識改革から始め、基
本的な精神面を整え、他村が
らみると、目的(後進性を何とし
ても排除しない)ははなならない。
手始めは婦人会、青年団の指導
である。
私のような者が来て指導者と

の資格があるだろうか、自分
に大きな疑問を持ちながらも、た
だだすらすら、勤務時間に関係な
く夜も昼も朝も夕も動く廻っ
た。
公民館として何かやらなければ
ならない。村民の茶の間といっ
ても、その建物のない公民館、各

部室の公堂を借りて、まず青年
団と婦人会を対象に料理講習会を
はじめ、洋・和裁教室など、各講
習会をたくさん開催したのであ
る。そして各団体でも得意得意の
楽園や大行事は、すべて公民館が
主催で実施した。

あの頃流行した三ツの歌、郷土
芸能大会など、今思ひだしてもな
つかしいものばかりである。
こうしてまず仲間づくりから始
め、公民館の存在価値を認識させ
ることに成功し、大きな信頼をか
ち得たのであった。

ちの自主性のなさ、といつては
しい、と婦人会から要請された
ことがある。土万円もする振袖
を買ってやるのに親が苦勞して
いる、というのが理由である。
事情はわかるが、それで成人
式の日を變更するわけにいな
い。

連が奪われて」といふ、学生批
判の手記を発表している。これ
も親心で、中学卒業だけの娘の
嫁はまた少し、二十年近く前
のことである。
そのころ、新安保反対で全学
草柳大蔵氏は、いまの青年を
型人間である。
サラリーマンの喜びものはマ
イホームである、とアンケート
の数字は示している。高度経済
成長時代の若狭烈社員も減っ
た。もちろん、英雄崇拜や立身
出世指回吉に返る気配は全く
ない。

石井新一メモ

13

八十年代の学習課題

実態調査をしたらおもしろい
結果がでた。高校進学率の低い
中学校の卒業生ほど振袖を巻く
者が多い。大学生も校所に勤務
する職員は一人も着ていない。
娘を高校へやれなかつた埋合わ
せに振袖を着せようとする親
心、それに甘えようとする娘た
とどろが前年には、「娘を全学
連が暴れまわり、女子大生確実
習子が死んだ、父親の大学教授
は、娘の死を悼みながらの体制
批判論文をある雑誌に載せた。
とどろが前年には、「私は」があ
らなかつた。

政治・経済、世界情勢、すべ
て遠慮のうちに八十年代が明け
た。相愛や情報だけは溢れて
いる。これからの公民館の学習
活動はいかにあるべきだろう
か。(筆者は本会会長、豊栄市
長)

た。そしてその公場で公民館の趣旨
説明、青年団・婦人会の活動や
会合の持大、新しい社会への対応
なをそれとなく映画の台詞に行
た。最初のうちは嫌がったが、そ
れが映画の狙いであるとかわか
いつの間にか、感服があら始め
た。教育とは恐ろしいものである。
こうして青年層から、地域の後進
性打破の考えが湧きあがった。
公民館行事に公然と取りあげて
も、抵抗がなく、青年団や婦
人会の活動にもとりあげられ、い
つの間にか積極性もでてきた。
こうして新しい時代への自覚めが

始まり、その輪が口をたつことに
大きく拡がり、変化の多い現状維
持は最悪と許されなくなり、先進
地区に追いつこうと誰もが考える
ようになって村全体が活気がでて
きた。知らない者への導き、それ
は口先だけでなく実行にあると
私自身大きな勉強になったこと
であった。

執筆者紹介
大沼俊は、旧松浦村公民館を
ふり山しに新発田市中公民館主
事など約十年間、草創時代の公民
館活動を経験、県公連理事等
も活躍していた。昭和五十一年、
新発田市情報センター室長を以
て退職、現在、自宅をライフワ
ークとしての郷土第九目を執筆
中。六十三才。

あとがき

慶冬で終るのかと思っていた
ら、やはり降り出しました。雪
国の冬なんですね。
雪のない冬をよるご本人、雪
がないと生活の糧を得られない
人、世はさままのようです。
先年の暮れに開かれた全国公
民館振興大会で、本県から十名
のベテラン職員が表彰されまし
た。一方では、文部大臣賞を受
賞したエキスパートも出るな
ど、まさに表彰パーティのよう
でした。受賞の皆さん、ほんとうに
おめでたうございました。(本)